

授業の概要

科目・担当教員	内 容 <small>※授業内容は変更になる場合があります。</small>
保育原理 (小山 優子)	保育の基礎・基本を学ぶ入門科目として、保育に必要な基本理念や考え方、方法を学び、保育実践に役立つ知識を身につけることを目標とする。特に、保育の本質の理解と保育の実践的視点を習得するとともに、子どもをとりまく現状や保育の現代的課題の理解を目指す。
児童家庭福祉 (藤原 映久)	児童家庭福祉の理念と歴史、関連する法体系、関連する機関や施設などの基礎的知識に加え、児童とその家庭を取り巻く現在の状況、被虐待児童を含む要保護児童の理解と支援、非行少年や障がい児の理解と支援等、現代社会が抱える児童家庭福祉の問題の理解と支援について幅広く学ぶことを目的とする。
社会福祉概論 (藤原 映久)	社会福祉の概念・理念、歴史などの社会福祉の基礎的な学習から始まり、社会福祉の制度や児童家庭福祉、障がい児(者)福祉、高齢者福祉といった分野別の福祉について学んだ上で、相談援助技術であるソーシャルワークについても学ぶ。これらの学習を通じて、社会福祉の基礎的な知識と実践技術を理解することを目的とする。
子どもの保健ⅠA (前林 英貴)	現在の小児保健の現状と子どもの心身の健康増進を図る保健活動について理解するとともに、保育専門職として、子どもの成長・発達に関する基礎的な知識について学ぶ。またこの講義では、子どもの精神保健についても理解を深めていく。
子どもの食と栄養 (長島 美保子)	子どもの健康な生活と食生活の意義や栄養に関する基本的知識を理解する。子どもの発育・発達を踏まえた食生活について理解を深め、栄養教育(食育)の在り方について体験的に学ぶ。更に家庭や児童福祉施設における食生活の現状と課題について学び、幼児食を計画し、調理することができる。
保育内容人間関係 (矢島 毅昌)	保育所保育指針や幼稚園教育要領に記載される領域「人間関係」をもとに、乳幼児期の人間関係の発達についての知識を学ぶ。また、保育実践や子どもの家庭生活等の事例を考察することを通じて、子どもが他者と関わる力を育むために保育者が担う役割とは何かを学ぶ。
保育内容環境 (山尾 淳子)	保育所保育指針や幼稚園教育要領に記載される領域「環境」をもとに、子どもと人・自然のかかわりを理解し、「探索意欲と好奇心を育てる」ための保育内容のあり方を学ぶ。子どもの遊び行動を、発達の要素に分けて組み立てたうえで視点、子どもの興味・関心をひきつけ発達をうながす指導の工夫、小学校教育への連続性を学ぶ。
保育内容表現Ⅰ (福井 一尊)	1年次の「美術工芸」における学びを基礎として、さらに幼児造形表現及びその指導についての考察を深めていく。「造形遊び」・「造形表現」の範囲、幼稚園教育要領及び保育所保育指針の中の「造形」の位置と意義及び歴史的経緯、造形表現指導の実際と課題、発達に即した援助の具体的な方法、子供の造形への発達の・特質的・心理的・造形(美)的アプローチなど、現場における指導に直結する内容を扱う。その際、常に制作を通して体験的に学んでいくことを重視し、豊かな人間性の基盤となる創造する喜び、造形(美術)を愛好する心情を養う。
保育内容表現Ⅲ (梶間 奈保)	保育者は、子どもが日常生活から感じたり考えたりする中でうまれる「表現」を見出し受け止め、それらを育てていく。そのために、保育者が多様な表現に対して理解を深め、表現することの楽しさや面白さを子どもと共有することが大切である。自身の表現の豊かさが子どもの表現の多様性につながっていく。以上のことから、この科目では保育内容における5領域の中の1つ「表現」を土台とし、特に音楽に関わる内容について、事例や音楽表現を通して学びを深めていく。
乳児保育 (前林 英貴)	保育所や乳児院で乳児保育(3歳未満児)を担当する保育士として必要な保育の理論や知識、技術の基本について学ぶ。乳児期(3歳未満児)の発達や生活、遊び、環境、保健等についての基本的な知識を身に付けるとともに、保育者としての関わりについて学ぶ。
障害児保育Ⅱ (石井尚吾ほか)	「障害児保育Ⅰ・Ⅱ」では、乳児期から就学前までの障害児保育について、障害のある子どもがいる保育風景と保育現場における具体的支援方法を概説する。このうち「障害児保育Ⅱ」では、発達障害の分類、基礎疾患と診断・評価について述べたのち、保育所・通園施設での保育・療育と保護者支援について概説する。
音楽ⅠA (梶間 奈保)	保育者は子どもと音や音楽と一緒に楽しみ、音楽的活動につなげていくために様々な音楽表現を把握し理解しておく必要がある。また、音楽の基礎知識の理解はピアノ技能の習得だけではなく、音楽表現の多様性につながり、保育の実践的な場面にも活かすことができる。以上のことからこの科目では、音楽理論を丁寧に学ぶことを前提とし、保育現場における音楽に触れながら、音楽の楽しさを味わっていききたい。
美術工芸A (福井 一尊)	幼児造形表現について発達の側面及び特徴(特質)的側面からアプローチすることで幼児理解を深めるとともに、その指導の目標と内容及び方法についての基礎的な知識と理論を身につける。また実技面では、様々な表現方法、材料に触れること及び互いの作品・制作鑑賞によって、造形表現指導に生きる造形能力を高めることに主眼をおき、自ら創造する喜びを味わい、豊かな感性を自己の中に育てていくことを目指す。

科目・担当教員	内 容 ※授業内容は変更になる場合があります。
アフリカ研究 (鹿野 一厚)	<p>「貧困」や「紛争」などの様々な困難に見舞われてきたアフリカは、21世紀にはいって大きく変貌しつつある。もちろん貧困も紛争もまったくなくなったわけではないし、エボラ出血熱など新たな困難も発生しているが、アフリカ全体を見れば5%を超える経済成長を達成し、携帯電話が爆発的に普及するなどの明るい兆しも見えている。</p> <p>この授業では、最新のアフリカ研究の知見を紹介しながら、日本から遠く離れたアフリカとそこに住む人びとの経験から私たちは何を学ぶことができるのかを考えていく。</p>
日本文化史 (小泉 凡)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 主として民衆が担い手となる日本文化に関する基礎的な知識を身に付ける。 2. 異文化との比較を通して、相対的に日本文化を理解する。 4. 上記により、文化理解の土台を構築する。
小泉八雲入門 (小泉 凡)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 小泉八雲(ラフカディオ・ハーン / 1850-1904)のおいたち、精神性、主要作品への理解を深める。 2. 小泉八雲が山陰地方の地域文化をどのように五感で観察したか、代表作のひとつである『知られぬ日本の面影』の講読と現地見学により体感する。 3. 小泉八雲を現代社会に文化資源として活用する意義について探究する。
文化人類学 (塩谷 もも) (鹿野 一厚)	<p>文化人類学は、フィールドワーク(現地調査)を中心的な研究方法としています。世界中の調査地から集められた細かくかつ多様な事例をあつかいながらも、それを人間というひとつの大きな枠組みに結び付けて理解していくという、ユニークな特徴を持っています。このような文化人類学の成果は、グローバル化する世界を生きていく私たちにとって、羅針盤のような役割を果たすものです。</p>
文化とガイド (Dustin Kidd)	<p>The goal of this class is to provide students with the vocabulary and information that will allow them to effectively describe famous sites in Shimane (mainly Matsue) in English, as well as various historical and cultural aspects of the area. It will also give the students a better understanding of and appreciation for the area in which they are living.</p>
比較文化入門 (Dustin Kidd)	<p>The goal of this class is to introduce students to the ideas behind comparing different cultures. New vocabulary will be taught so that students can both understand and express the ideas introduced in class. The class will also introduce students to a wide variety of cultures and cultural facets to give them a broader perspective with which to view the world we live in.</p>
読み聞かせの実践 (岩田 英作)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 絵本の読み聞かせを通して、子どもと向き合いながら豊かに表現する力を養う。 2. 学外での活動で子どもをはじめ様々な人と関わることを通して、一人の市民として立ち振る舞う自覚をもち、社会性とコミュニケーション能力の向上を図る。 3. 地域の子どもたちに豊かな感性と想像力を養う文化環境の場を提供する。
音声学 (高橋 純)	<p>言語音の構造や役割を理解できるようになり、個別言語の学習に役立てられるようになる。</p>